

2025 年度後期
「授業改善のための学生アンケート」 結果報告書

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

目 次

1. 2025 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要	
① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設問の内容	2
⑤ 実施科目数	3
2. 2025 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果	
① 学部	4
② 大学院	9
3. 2025 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて	
① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	14
② FD・SD 推進委員会からのメッセージ	17
4. 2025 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業	
① 顕彰授業	18
② 顕彰授業における工夫	19

1. 2025 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実施期間：2025 年 12 月 22 日（月）～ 2026 年 1 月 26 日（月）

実施対象：文学部専門科目、外国語科目、中等教職課程科目、
大学院（国・フ・英・言）専門科目

※対象外科目でも教員の希望により実施可

調査方式：CampusSquare（Web） 自由記述欄あり（p.3 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約 10 分

③ 実施方法

- 1) 授業終了の10分前を目安に、履修学生にアンケート回答時間を設ける。回答は原則として授業時間内に行う。
- 2) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 3) 回答が完了しない学生が生じた場合は、実施期間中の任意の時間に、回答を行うように指示する。

④ 設問の内容

設問と回答選択肢は以下の通り。

- Q1 (大学院科目対象外) あなたは授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
I. 週2時間以上 II. 週1~2時間 III. 週30分~1時間 IV. 週0分~30分 V. 全くしていない
- Q2 この授業の進度は適切でしたか。
I. 速すぎる II. やや速い III. ちょうどよい IV. やや遅い V. 遅すぎる
- Q3 この授業の難易度は適切でしたか。
I. 難しすぎる II. やや難しい III. ちょうどよい IV. やや易しい V. 易しすぎる
- Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。
I. 多すぎる II. やや多い III. ちょうどよい IV. やや少ない V. 少なすぎる
- Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない

- Q12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q17 この授業を履修したことに満足している。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q18 この授業について、良かった点を、自由に記述してください。（自由記述）
- Q19 この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。（自由記述）
- Q20 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。（自由記述）
- Q21 （教員より指示があった場合のみ回答） ※教員個別設定質問 （自由記述）
- Q22 この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だ。
Ⅰ. はい Ⅱ. いいえ
- Q23 （Q22で「いいえ」と答えた人のみ回答） 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。（自由記述）

⑤ 実施科目数

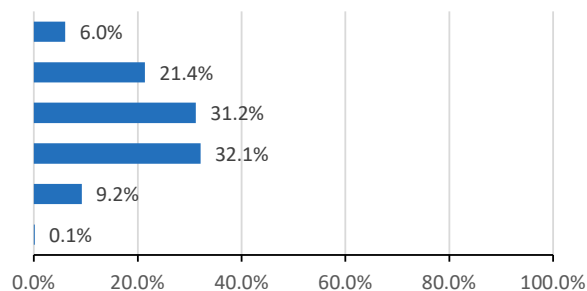
286 科目（学部：280、大学院：6）

2. 2025年度後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

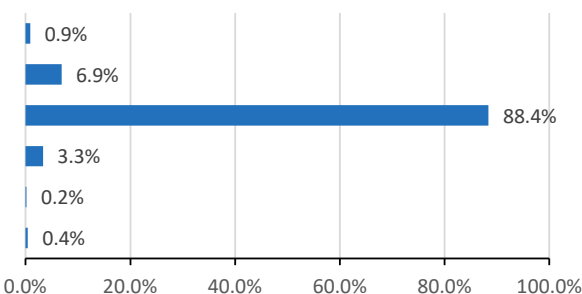
Q 1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	102	6.0%
2	週1～2時間	362	21.4%
3	週30分～1時間	528	31.2%
4	週0分～30分	543	32.1%
5	全くしていない	156	9.2%
6	非該当	2	0.1%
	合計	1,693	



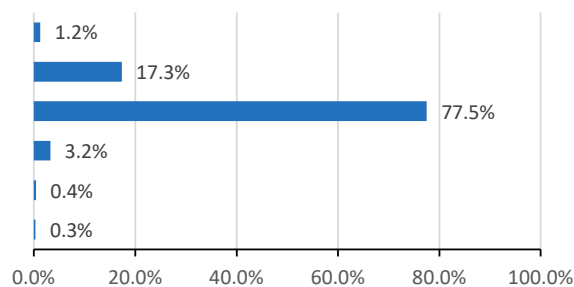
Q 2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	15	0.9%
2	やや速い	116	6.9%
3	ちょうどよい	1,496	88.4%
4	やや遅い	56	3.3%
5	遅すぎる	3	0.2%
6	非該当	7	0.4%
	合計	1,693	



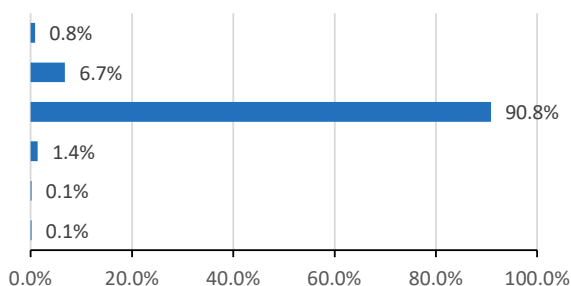
Q 3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	21	1.2%
2	やや難しい	293	17.3%
3	ちょうどよい	1,312	77.5%
4	やや易しい	55	3.2%
5	易しすぎる	7	0.4%
6	非該当	5	0.3%
	合計	1,693	



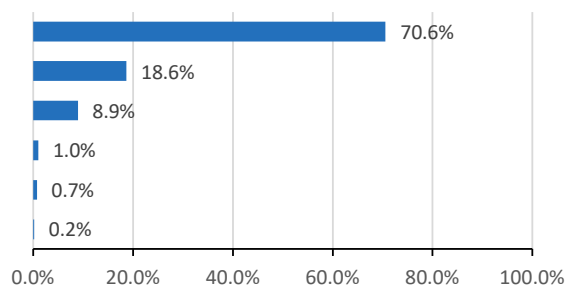
Q 4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	14	0.8%
2	やや多い	114	6.7%
3	ちょうどよい	1,538	90.8%
4	やや少ない	23	1.4%
5	少なすぎる	2	0.1%
6	非該当	2	0.1%
	合計	1,693	



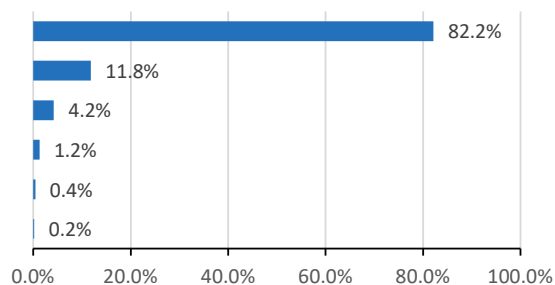
Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,195	70.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	315	18.6%
3	どちらとも言えない	151	8.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	17	1.0%
5	あてはまらない	12	0.7%
6	非該当	3	0.2%
	合計	1,693	



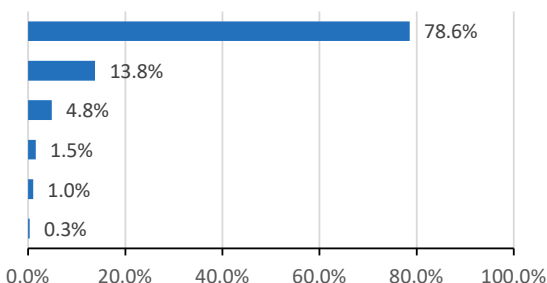
Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,391	82.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	200	11.8%
3	どちらとも言えない	71	4.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	21	1.2%
5	あてはまらない	7	0.4%
6	非該当	3	0.2%
	合計	1,693	



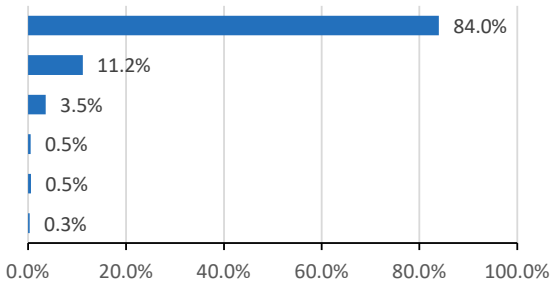
Q7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,330	78.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	233	13.8%
3	どちらとも言えない	82	4.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	26	1.5%
5	あてはまらない	17	1.0%
6	非該当	5	0.3%
	合計	1,693	



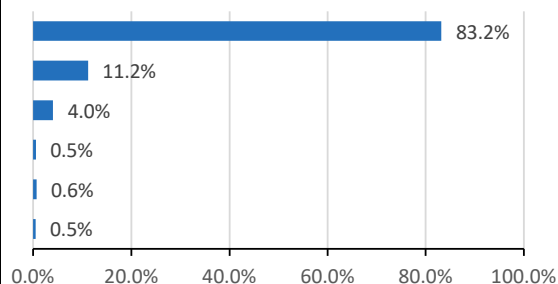
Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,422	84.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	189	11.2%
3	どちらとも言えない	60	3.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	8	0.5%
5	あてはまらない	9	0.5%
6	非該当	5	0.3%
	合計	1,693	



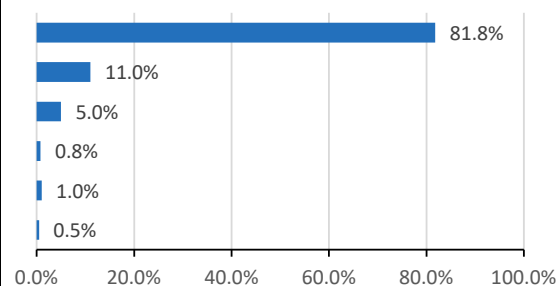
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,408	83.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	189	11.2%
3	どちらとも言えない	68	4.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	9	0.5%
5	あてはまらない	11	0.6%
6	非該当	8	0.5%
	合計	1,693	



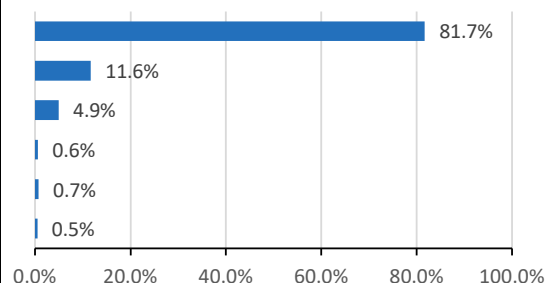
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,385	81.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	186	11.0%
3	どちらとも言えない	84	5.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	13	0.8%
5	あてはまらない	17	1.0%
6	非該当	8	0.5%
	合計	1,693	



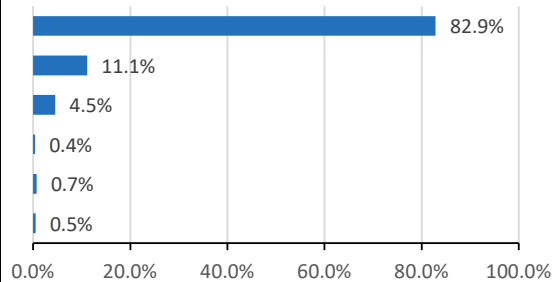
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,383	81.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	197	11.6%
3	どちらとも言えない	83	4.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	10	0.6%
5	あてはまらない	12	0.7%
6	非該当	8	0.5%
	合計	1,693	



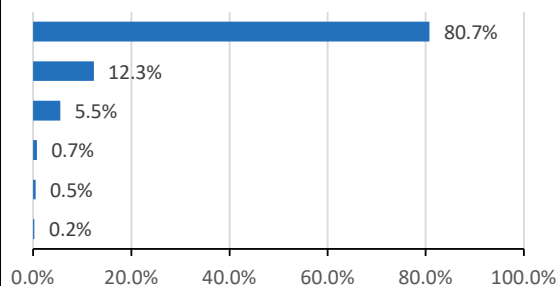
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,403	82.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	188	11.1%
3	どちらとも言えない	76	4.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	6	0.4%
5	あてはまらない	12	0.7%
6	非該当	8	0.5%
	合計	1,693	



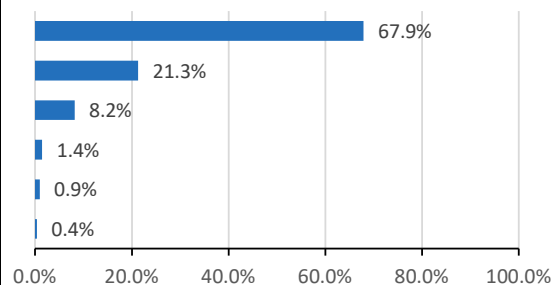
Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,367	80.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	209	12.3%
3	どちらとも言えない	93	5.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	12	0.7%
5	あてはまらない	8	0.5%
6	非該当	4	0.2%
	合計	1,693	



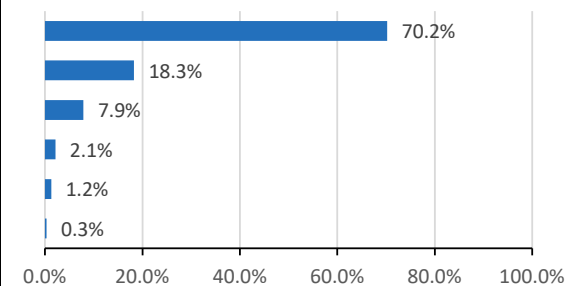
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,149	67.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	360	21.3%
3	どちらとも言えない	138	8.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	24	1.4%
5	あてはまらない	16	0.9%
6	非該当	6	0.4%
	合計	1,693	



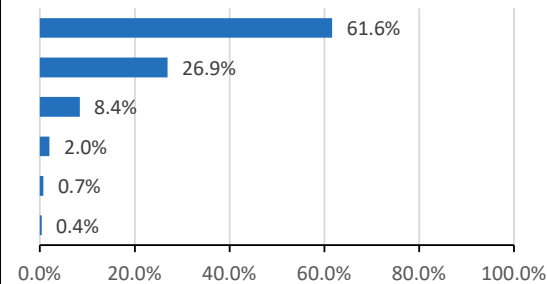
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,189	70.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	309	18.3%
3	どちらとも言えない	133	7.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	36	2.1%
5	あてはまらない	21	1.2%
6	非該当	5	0.3%
	合計	1,693	



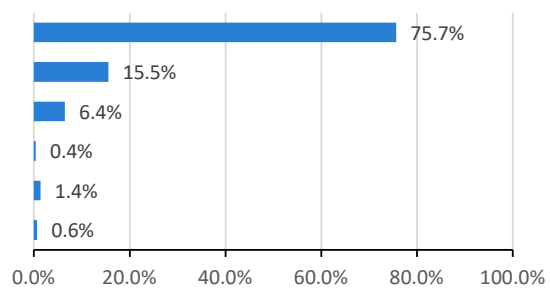
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,043	61.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	456	26.9%
3	どちらとも言えない	142	8.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	34	2.0%
5	あてはまらない	12	0.7%
6	非該当	6	0.4%
	合計	1,693	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,281	75.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	263	15.5%
3	どちらとも言えない	109	6.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	6	0.4%
5	あてはまらない	23	1.4%
6	非該当	11	0.6%
	合計	1,693	



2. 2025年度後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

②大学院

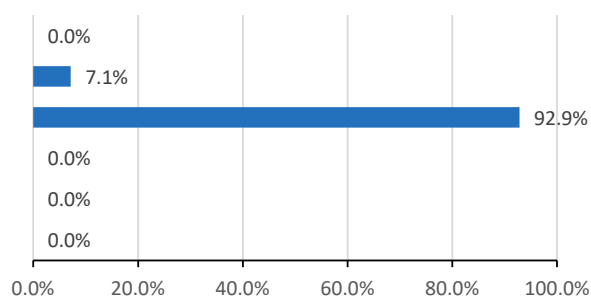
Q 1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	0	
2	週1～2時間	0	
3	週30分～1時間	0	
4	週0分～30分	0	
5	全くしていない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

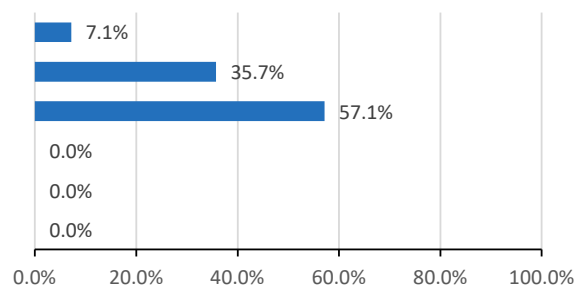
Q 2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	0	0.0%
2	やや速い	1	7.1%
3	ちょうどよい	13	92.9%
4	やや遅い	0	0.0%
5	遅すぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



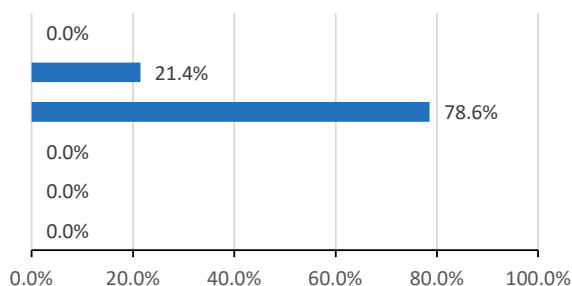
Q 3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	1	7.1%
2	やや難しい	5	35.7%
3	ちょうどよい	8	57.1%
4	やや易しい	0	0.0%
5	易しすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



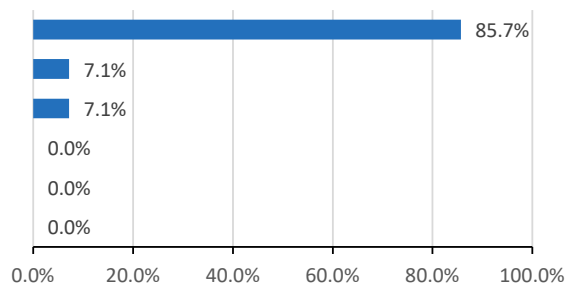
Q 4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	0	0.0%
2	やや多い	3	21.4%
3	ちょうどよい	11	78.6%
4	やや少ない	0	0.0%
5	少なすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



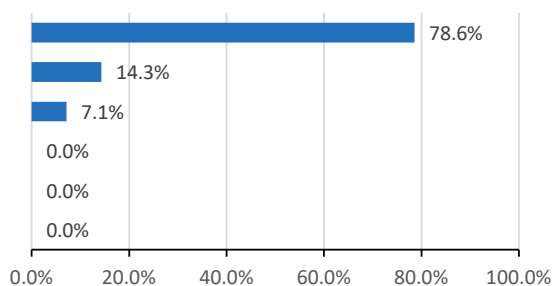
Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	12	85.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	1	7.1%
3	どちらとも言えない	1	7.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



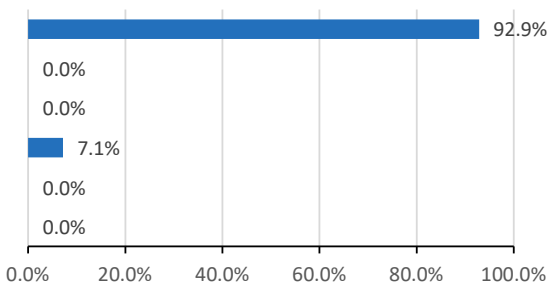
Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	11	78.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	14.3%
3	どちらとも言えない	1	7.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



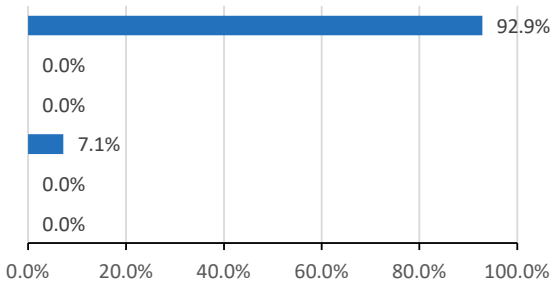
Q7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	13	92.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	7.1%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



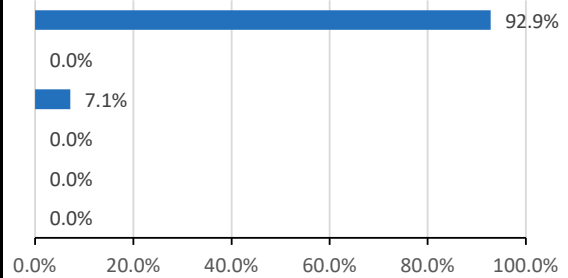
Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	13	92.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	7.1%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



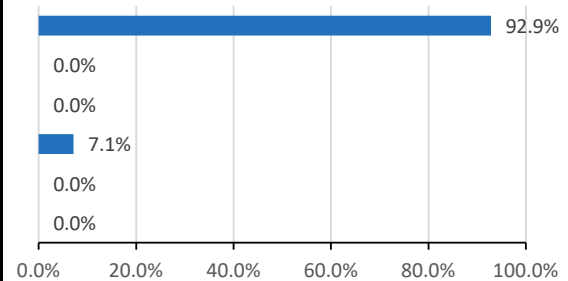
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	13	92.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	1	7.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



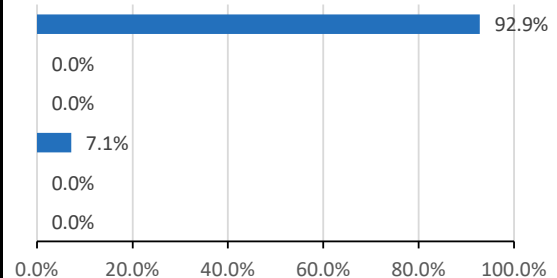
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	13	92.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	7.1%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



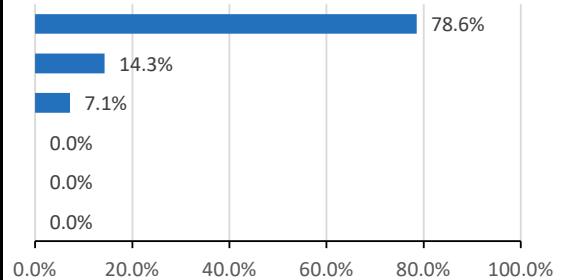
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	13	92.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	7.1%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



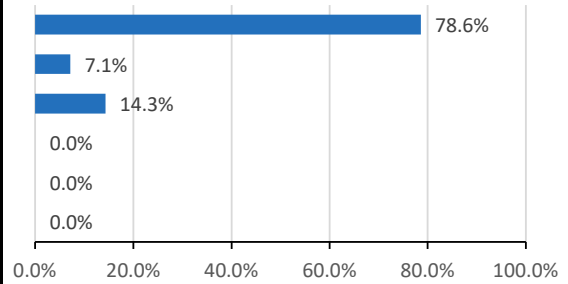
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	11	78.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	14.3%
3	どちらとも言えない	1	7.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



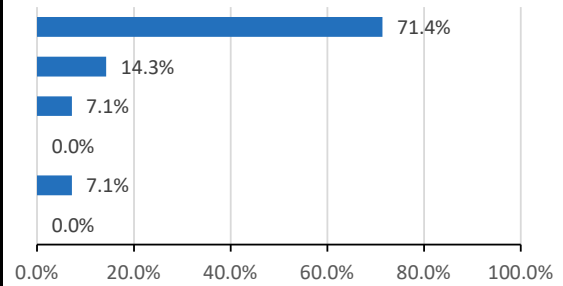
Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	11	78.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	1	7.1%
3	どちらとも言えない	2	14.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



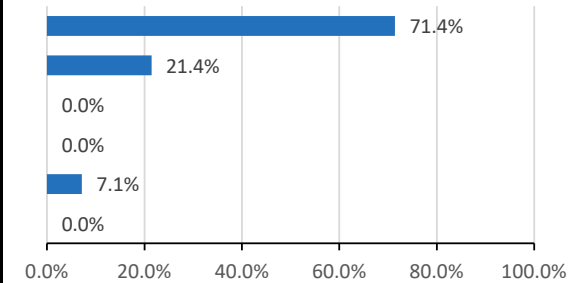
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	10	71.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	14.3%
3	どちらとも言えない	1	7.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	1	7.1%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



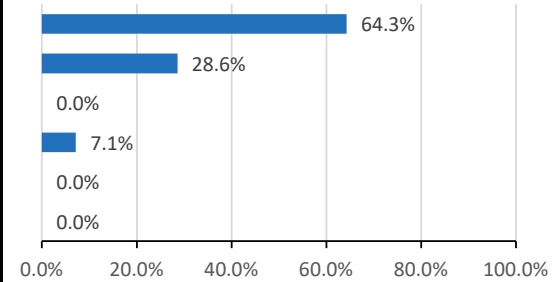
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	10	71.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	3	21.4%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	1	7.1%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



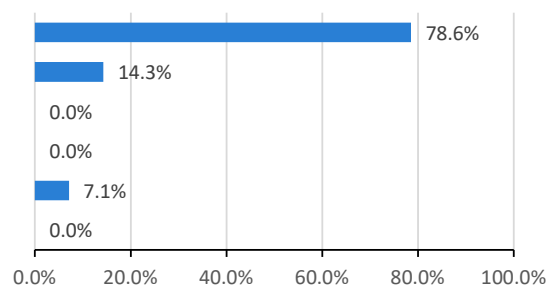
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	9	64.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	4	28.6%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	7.1%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	11	78.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	14.3%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	1	7.1%
6	非該当	0	0.0%
	合計	14	



3. 2025 年度後期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業担当教員、FD・SD 推進委員会からのメッセージをお届けいたします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

テーマ別研究Ⅱ/Ⅳ	常盤 智子	2025/月 2/後期
<p>【Q19 同学年同士のコミュニケーションの機会もある良い】という意見について、同学年同士でも、交流のきっかけが見出せないことがあるのかもしれないかもしれませんね。それぞれが意見を述べる際に、学生同士のコミュニケーションが重要だと考え、特に、異なる学年の学生と意見を交換する機会を模索してきました。ご意見を参考に取り組みでみます。教えてくださってありがとうございました。</p> <p>そのほか、【Q18】【Q20】などで、興味を持って積極的に取り組んでくれたコメントもいただきました。これからも、安心できる環境で、それぞれの興味や知識を広げていけるよう、工夫していきたいと思えます。</p>		
日本中世史Ⅱ	谷口 雄太	2025/金 4/後期
<p>史料から過去を復元していく意義と難しさを体験していただきました。</p>		
国語国文学特講（演劇）Ⅱ	安富 順	2025/金 2/後期
<p>アンケートへのご協力ありがとうございました。深刻な問題点等もなく、比較的好評のようで、まず安堵致しました。日本古典演劇とその周辺文化をより密接に関連付け、受講者の皆さん方の興味・関心を引き出せる講義内容にすべく、努めたく存じます。</p>		
英語科教育法ⅠB	坂本 ひとみ	2025/月 3/後期
<p>8名が履修している科目であり、授業中にアンケートをお願いしましたが、3名分のみ回答が返ってまいりました。1名は、授業以外の学習について「全くしていない」と回答されていて、それはおかしいのではないのでしょうか。学習指導案を書いたり、授業での発表のためのスライドを作ったり、全員が、それは授業時間外でしてくださっていましたので、何か勘違いがあったかもしれません。授業の難易度については全員が「ちょうどよい」につけてくださったのでよかったです。課題の量については、2人が「やや多い」一人が「ちょうどよい」と回答</p>		

しています。教職科目ですと、ついつい課題が多くなりがちですので、学生さんたちの負担感が少なくなるよう、よく対話をして、その課題をやる意義を丁寧に説明して進めていきたいと思います。Q 6 から Q 1 4 までは全員がポジティブな回答をしてくださっています。次年度は、履修者の満足度がさらに上がるように努力と工夫を重ねていきたいと考えております。

英語科教育法特講 B

坂本 ひとみ

2025/月 4/後期

この科目は履修者が 4 名で、3 名が回答を寄せてくださいました。授業の進度、難易度、課題の量は 3 名ともが「ちょうどよい」と回答してくださり、ありがたく思っております。履修者が少ないため、リポーターが回ってくる順番も早くて、教職科目ですとどうしても課題を多く出しがちで心配しておりました。ほかの科目で出されている課題の量とのかねあいもあるので、学生さんにはその状況についていつも尋ねるようにはしておりますが、負担感なく課題をやっていただくためには、その課題をやることがその科目の達成目標のどこにひもづけられるのか、やる意義を教師が丁寧に説明することも重要だと感じております。少人数科目ですので、次年度はもっと一人ひとりが主体的に取り組み、満足度の上がる授業にできるよう努めてまいります。

英語表現 I A

坂本 ひとみ

2025/水 1/後期

履修者 10 名全員からの回答があり、大変高い評価をいただきました。【Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた】【Q 1 4 この授業に主体的に取り組むことができた】【Q15 この授業の内容に興味を持つことができた】【Q16 この授業の内容を十分に習得できた】【Q17 この授業を履修したことに満足している】の 4 問について、お一人だけ「どちらともいえない」にすべてつけている方がいらっしゃいましたが、ほかの 9 人は全員がポジティブ評価をくださいました。とくに、「内容はシラバスに沿っていた」については、「あてはまる」に 9 人がつけてくださっていて、毎回、授業のはじめには、シラバス全体の流れをスライドに映し、当日の目標にハイライトをつけて示してきましたので、そのことを理解してくださった方がほとんどであったことはよかったですと思います。自分が作ったシラバスではなく、学科で共通のシラバスですから、それに従って授業を組み立てることに留意しておりました。

【Q 1 授業以外の学習時間】について、「全くしていない」につけた人は一人もいなくて、【Q 4 課題の量】については 10 人全員が「ちょうどよい」と回答してくださったことは、新年度からも同じ科目を担当しますので、同じように課題を出し、みなさんが楽しんでやるように工夫していきたいと思います。どんなトピックで英作文をしたいかを学生さんたちに聞いてアンケートをとったところもよかったですと思います。クラスメートの英作文を読んで互いにコメントを書き合ったり、クラス内でスピーチコンテストをして、レイチェル先生に審査をしていただきながら互いにスピーチを聞き合いますので、みんなが関心をもてる英語表現の内容にしていくことが大事だと思っています。また、アイスブレイキングのゲームで

は、クラスメートが互いに英語で質問しあって、新たな発見ができるようなものを考えました。以下の自由記述コメントをいただきましたが、上記のことにも触れてくださっています。「間違っているところを優しく、丁寧に教えていただけたのでとても良かったです。授業の課題として、TAの方とお話をする機会が得られたので、そこも良かったなと感じています。また、他の授業とは違い、クラスメイトとの仲も深まる授業形態だったため、気軽に楽しく英語を学ぶことができました。また、最初のほうの授業でやっていたスライド作成も楽しかったです。」このようなうれしいコメントをいただくと、次年度もさらにより授業にしていこうという励みになります。どうもありがとうございました。

特別演習Ⅱ**坂本 ひとみ****2025/水2/後期**

卒論指導に関して、「自分の問題意識を丁寧に汲んでいただき、相談によくのっていただいたおかげで、いい卒論が書けた」と書いてくださった人と「卒論を教える授業なのにその指導がなかった」と書かれた人がいました。後期の「特別演習Ⅱ」の授業では、各人のテーマについて発表してもらっては、その人が出してくれる問いについてゼミの全員で考えを紙に書いたり、話し合ったりしてきましたが、もっと卒論の書き方の基本の「き」を教えてほしいと思っていた方がいたようで申し訳なく思っております。私としましては、前期の「特別演習Ⅰ」で、前年度の優秀卒論として SELLA に掲載されていた岸谷さんの卒論をとりあげ、その論文のよいところ、もっと工夫できるところ、自分の卒論にとりいれてみたいところなどを分析して書いて提出していただき、基本的な卒論の構成をご指導し、個々人のテーマについて私自身もどんな参考資料が使えるかできる限り調べて、一人ひとりに授業でもメールでもお伝えし、図書館で論文や本を借りてきてお示しすることもしておりました。学生さんの期待していたこととうまく合致していなかったケースがあるようで、お詫びいたします。

② FD・SD 推進委員会からのメッセージ

「授業改善のための学生アンケート」は、学生の皆さんが、受講する授業を通じてより充実した学びを得られるよう、2010 年度より学期ごとに実施しています。

2020 年度後期にアンケート用紙から Web 実施に切り替えた際の回答率は、18.5%でした。その後、委員会ではより多くの学生から回答を得られるよう、回答の負担軽減も考慮して設問項目の見直しを行い、2022～2025 年度は学部・大学院の全科目を二分割して、2 年間で全科目のアンケートを実施してきました。その間全 8 回のアンケートを行い、平均回答率は 35.2%という結果で、十分に回復したとまでは言い難い状況が続いています。なお、教員からは全科目実施を希望する声があり、また科目を二分割して実施することに伴う周知の難しさなどの課題もありました。

2025 年度も、委員会では授業アンケートワーキンググループが中心となり検討を重ねてきました。その結果、2026 年度から、全科目のアンケートを実施することとし、設問項目に関しては、類似の内容を一つに統合するなど大幅な見直しを行い、23 問あった設問を 13 問に削減しました。自由記述回答では、授業改善という目的はもとより、学生がこのアンケートを機に授業への向き合い方を振り返るきっかけとなるよう、聞き方も考慮しました。

今後もこのアンケートを活かして、大学全体で本学の教育をよりよいものにしていきたいと考えています。

「授業改善のための学生アンケート」2025年度後期 顕彰授業について

2026年4月30日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は2010年度より実施し、2017年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお2022年度より2年間で全科目のアンケートを実施することとし、2024・2025年度は全科目区分を2分割して実施しています。2025年度は、文学部専門科目、外国語科目、中等教職課程科目、大学院（国・フ・英・言）専門科目が対象です。

2025年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2025年度後期

少人数部門（履修者6～19名）

国語国文学科専門科目 木曜2限 後期

「テーマ別研究Ⅱ／テーマ別研究Ⅳ」武田 加奈子 先生（文学部国語国文学科教授）

多人数部門（履修者20名以上）

外国語科目 金曜2限 後期

「総合英語Ⅱ」遊佐 重樹 先生（全学基盤教育部門グローバル言語・文化教育センター教授）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の6項目（項目毎の平均点の合計／30点満点）とする。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰部門は、「少人数」（履修者数6～19名）と「多人数」（履修者数20名以上）の2部門とする。
- ⑥ 白百合女子大学 FD・SD 推進委員会は、選考資料をもとに各部門第1位を確認、顕彰対象授業を決定する。その際アンケート回答率によって順位を調整する場合がある。その後、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」 2025 年度後期 顕彰授業における工夫

2025 年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 6 項目です。

- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

< 少人数部門（履修者 6～19 名） >

「テーマ別研究Ⅱ／テーマ別研究Ⅳ」 武田 加奈子 先生（文学部国語国文学科教授）

2025 木 2 後期 国語国文学科専門科目

◎「テーマ別研究」とは？

「テーマ別研究」という授業はいわゆるゼミのことで、国語国文学科の場合は卒業論文（卒論）をどの分野のどの教員のもとで書くかを決めた 3 年生から所属します。私の授業では、日本語に関する疑問について調べるためのさまざまな調査方法を知ることから始めています。その後、一人ずつどの調査方法について発表するかを決めてもらい、実際の研究論文を読んで、内容をまとめて発表してもらいます。

また、3、4 年生合同の授業なので、4 年生は自身の卒論の進捗報告をしたり、時には調査協力をお願いを授業内でしたり、卒論提出後の報告などもこの「テーマ別研究」の時間に行っています。3 年生は 4 年生がどんなテーマに取り組んでいるのか、どんな調査方法を採用し、どんな結果を得られたのかをゼミの発表で聞いて、次年度の自分を思い描いてもらいます。4 年生は先輩として卒論のテーマ発表から始めますが、就活と同時並行でなかなか進まなかったりする時期もあり、後輩にいい格好を見せられない人もいますが…。自分で調査を始めるようになると、お互いの調査や分析についての質疑応答もポイントを踏まえたものになってくるので、私も成長を感じられる点です。

◎何か特別なことはやっていますか

この授業方法自体は着任当初から変えていませんし、自分も学生のころは似たような授業を受けてきたので、特に目新しい取り組みとかはないと思います。ただ、卒論では基本的に好きなことを取り上げていいことにしているので、一緒に何かに取り組んだりすることはないという難点があります。3 年生で同じゼミになったけれど、今まではあまり話したことがなかったというのもよくあるので、自己紹介をじっくりやるとか、グループワークを 4

月に入れるなどはやっています。自己紹介は主に新歓と称してやる学期始めの懇親会（いわゆる飲み会）でじっくりやっているかもしれません…これは私がただ飲みに行きたいだけということもあると思います…。国文で飲みに行くゼミというのは聞いたことがないと学生からも言われていますが、でもこれも着任当初から私がリクエストしてやってもらっていたりします。ちなみに、4年生の送別会もやっています。

うちのゼミの特長… 敢えていうなら、先輩・後輩のつながりがあるところかもしれません。人数が多いゼミだと話したことがない人もいるだろうと思いますが、私のところでは先輩（卒業生）に会いたいなーとつぶやくかわいい後輩もいます。4年生には授業アンケートとは別に、卒論の進め方や武田とのコミュニケーションの取り方などについてアンケートをとり、まとめて後輩へのアドバイスとして共有しています。これも着任当初からやっています。最近、希望があればゼミ合宿も行っています。学生はゼミ“旅行”と言っているのですが… 一応、フィールドワーク（現地調査）の形式をとっているつもりです。なかなか形にまとめられないので、ラフティングとか花火とか、そういうイメージが強いのかもしれません。これまで調査したことを一緒に論文にまとめられたらいいなとは思っているのですが、うまく積み重ねができるかどうかは難しく、ちょっと先のことになりそうです。

◎さいごに

今回の賞をいただいた学期にアンケート回答をした学年には、私が白百合に着任して送り出した 10 期目の卒業生が含まれています。これまで表彰などとは無縁の人生でしたが、節目の時期にプレゼントをいただいた気分です。「先生のブログ」と笑われている卒業生 LINE グループがあるのですが、そんなことは気にせずに（いつも気にしませんが）賞をもらったよと、また報告メッセージを流そうと思います。

このたびは身に余る賞をいただき、光栄に思います。ありがとうございました。

< 多人数部門（履修者 20 名以上） >

「総合英語Ⅱ」 遊佐 重樹 先生（全学基盤教育部門グローバル言語・文化教育センター教授）
2025 金 2 後期 外国語科目

○プレゼンテーションソフトを活用

テキスト本文を 1 文ずつスクリーンに投影し解説することで、長文読解の苦手意識を取り除くようにした。特に、キーワードや重要な箇所を色分けして意味を把握するだけで文全体の理解に繋げることができると意識づけた。授業評価のコメントから、この手法は効果があったことが窺える。毎回の準備は大変だが、この授業スタイルを支持する声が大きいため、継続したい。(Q7, 9, 16, 18)

○語彙力増強対策

前期に担当した「総合英語Ⅰ」では、語彙力不足に悩む学生が多かったため、語源学 (etymology) の知識を加えることで、語彙力を伸ばすテクニックを教えた。長い単語の多くが「接頭辞 (prefix) — 語幹 (stem) — 接尾辞 (suffix)」から成り立っていることはテキストにも記載されているが、さらに多くの接頭辞と接尾辞を解説することで、初めて見る単語でもすぐに諦めずに意味を探る様子が見られた。(Q7, 14, 15, 18)

○発音の苦手意識を克服

前期に担当した「総合英語Ⅰ」では、発音に自信がない学生が多く、それが英語学習の苦手意識につながっていることがわかった。そこで遊佐がアメリカ留学中に見つけ出した8つの発音ポイントを伝授した結果、学生が英語発音のコツを掴み、次第に自信を持ったようだ。(Q9, 14, 15, 18)

○質問への回答

基礎的な疑問であるために授業中は質問できない学生は多い。それらに対応するために、アクションペーパーに質問事項を書かせるようにした。質問は主に文法に関するものが多く、翌週の授業の中で解説したことで、学生は理解した。普遍的で素朴な疑問の解消は、漠然とした英語学習への不安を解消することに繋がった。基本的な文法内容であっても、その知識が欠けていたことは決して恥ずかしいことではなく、授業を通じて確実に覚えてくれればよいと強調した。(Q7, 10, 16, 18)

授業スタイルは今後も概ね同じだが、学生のニーズを把握し、総合的な英語力の向上に繋がるような教授法を常に模索したい。学生の情意フィルターを取り除き、リラックスして授業に臨むことができるよう、あらゆる可能性を追求していきたい。

